

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

新潟大学

学部・研究科等名

医歯学総合研究科

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 教育の実施体制

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名 基本的組織の編成

口腔生命医療科学領域と社会福祉学領域の統合的・学際的研究を推進し、高度かつ統合的な学識と技術力を持つ高度専門職業人を養成し、地域社会および国際社会における福祉の向上に貢献することを目的として、口腔生命福祉学専攻修士課程（定員6名，収容定員12名）を平成20年4月に設置した。本専攻は、食べることを中心とした口腔機能の維持向上を基点に、総合的な口腔保健・医療福祉サービスの提供およびその質の向上に指導的役割を果たせる実践的高度専門職業人、食べる機能（摂食・嚥下機能）を中心とした口腔生命医療科学と実践的な社会福祉学領域との統合的・学際的研究を推進できる教育・研究者として求められる基本的資質を身につけた人材の育成を目指している。

本専攻の専任教員としては、教授6名，准教授6名，助教2名が配置されている。平成20年度入学生は6名，平成21年度入学生は7名を確保し，平成22年3月には修了生6名を輩出した。

なお，口腔生命福祉学専攻博士後期課程の平成22年4月1日設置を目指して，文部科学省に設置計画書を提出し，平成21年10月に設置認可された。

顕著な変化のあった観点名 教育内容，教育方法の改善に向けて取り組む体制

平成20年度に，文部科学省事業「大学院教育改革支援プログラム」に口腔生命科学専攻が提案した「プロジェクト所属による大学院教育の実質化」が採択された。本プログラムにより，平成20年10月に大学院教育開発センターを口腔生命科学専攻内に設置し，専任教員3名（特任准教授1名，特任助教2名），非常勤事務職員1名を配置した。本センターでは大学院カリキュラムの立案・実施・管理及び教育指導体制を構築することにより，大学院歯学教育の実質化を図っている。このセンターの下，初年次教育に資する Professional writing & reading，実践統計学のカリキュラム立案，開講を行うとともに，基礎歯学コースワーク，臨床歯学コースワークを開講した。さらに平成22年度開講に向けて，学際的講義の展開を行う「基礎・臨床連続講義」を企画・立案するとともに，自学自習環境のために，講義・演習内容をデジタル画像化するコンテンツマシンの整備を行い，大学院教育用のDVDを作成し，ウェブサイト上に公開し，学生教育に供している。また，FD委員会委員を10名に増やし，大学院FDを定期開催するとともに，FD委員会委員の研修を行わせた（於；愛媛大学）。

## 資料 FD活動事業

平成20年度	平成21年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生のトータルコミュニケーション支援</li> <li>・講義を視覚的に興味あるものに</li> <li>・プロジェクト所属による大学院教育の実質化について</li> <li>・GP事業からみた高等教育の将来像</li> <li>・大学教員の教育的コンピテンシー・開発支援事業について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医学における基礎臨床ボーダレス教育</li> <li>・医療におけるプロフェッショナリズムとその教育</li> <li>・女子医大・早稲田大学の連携施設（TWins）を運営してみたい</li> <li>・マスコミから見た歯科医療</li> <li>・平成21年度・新任教員研修会</li> </ul>

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

新潟大学

学部・研究科等名

医歯学総合研究科

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 教育内容

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名 教育課程の編成

## 1) プロジェクト所属による大学院教育の実質化

平成 20 年度に、文部科学省事業「大学院教育改革支援プログラム」の採択により、口腔生命科学専攻設置の目的である「科学的基盤をもち超高齢社会で指導者となる高度医療専門職業人」の育成を目指すために、教育課程を、研究者並びに歯科医療・医学の指導者養成を目的とする新教育課程である「リーダー養成コース」と、従来型教育課程を基盤とした「主専攻展開コース」に分けた(コース制の実施)。また、学生の所属を、教員個人指導になりがちであった分野所属型から本専攻で推進している 3 大研究プロジェクトチームとし、複数教員による指導体制を実施した。

本教育課程は、両コースとも、基礎学力と基本技術の養成を目指したコースワーク、英語教育、基礎特別演習からなる初期教育課程(両コース共通)と両コース共通科目とコース独自の分野横断的(学際的)な講義・演習を展開する後期教育課程から構成した。初期教育課程の修了後に指導教員チームを編成し、研究課題を決定したのち、学生の希望と指導教員の協議により、個別カリキュラムを編成した。カリキュラム編成にあたっては大学院教育開発センターの助言のもと段階的履修が可能なカリキュラムとした。講義・演習のカリキュラム編成の基本は基礎・臨床融合型、学際的教育内容とし、プロジェクト研究チーム所属教員が講義・演習を行う。また、臨床実績の評価のために、臨床レポートの作成を指導している。さらに、TA・RA 業務を担わせることで教育・研究活動の実績を積むことにより教育・研究者マインドを涵養するプログラム、マネジメント・医療倫理・リーダーシップ・コーチングを主体するスキルアッププログラム、エクスターン支援プログラムを準備した。

なお、本取組は中央教育審議会大学院部会医療系大学院ワーキンググループ第 2 回会合(平成 22 年 3 月 5 日)で、紹介された。

## 2) 口腔保健医療に対応した若手人材育成プログラム

平成 21 年度に、日本学術振興会事業「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に応募し、書類審査・ヒアリング審査の後、採択された(口腔保健医療に対応した若手人材育成プログラム:口腔生命科学専攻)。平成 22 年 3 月には、海外派遣プログラム審査委員会を発足させ、学内説明会を開催し、学内公募を行った。平成 22 年度より大学院学生の派遣を開始する予定である。このプログラムの採択により、国際性豊かな大学院学生の育成が図られると考えられる。なお、このプログラムは口腔生命科学専攻の新教育課程の中のエクスターンプログラムに該当する。

## 3) がん専門医養成コース

平成 20 年度に、文部科学省の支援を得た「がんプロフェッショナル養成プラン」に対応したがん専門医養成コースを新規に導入し、平成 20 年度は 22 名、平成 21 年度は 15 名がこれに参加し、講義と実習の充実したカリキュラムでのプログラムを開始した。

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

新潟大学

学部・研究科等名

医歯学総合研究科

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 教育方法

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名 授業形態の組み合わせと学習指導法の工夫

口腔生命科学専攻では、平成 21 年度から、従来の Professional writing を改善し、英文論文の読解力向上を目指す Professional writing & Reading を少人数演習方式で開講した。英語教育を専門とする外国人教師を招聘し、英語を母国語としない外国人留学生及び日本人学生に対し、英語にて reading を教育した。すなわち、従来の英語から日本語への翻訳でなく、英語的思考で英文論文を理解し、英語のコンテキストを重要視するという新たな観点から英語教育を実施した。本演習では e-mail を活用した講師との discussion が重視され、講師からの宿題に対し、レポートを提出させ、読解力の向上を図るとともに、最新の英語論文雑誌を教材として取り上げ、評価の高い英文雑誌に掲載された論文の構成を理解させている。この演習の開講により、各教育研究分野で行われている専門的な英文講読の際の大学院学生の英語力の向上が図られたという意見が寄せられている。

また、専攻の教育目標に対応した人材の養成を行うために、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワークを新たに開講し、コースワーク開講教員をアドバイザー教員として、主指導教員 1、副指導教員（アドバイザー教員）2 の教員 3 名による複数指導体制を確立し、きめ細やかな教育を実施した。また、学生にアンケートを行い、各プロジェクトに学際的な研究を指導する基礎・臨床連続講義を企画立案し、専攻長が優先的な非常勤講師の配置を行うことにより、トランスレーショナルリサーチの遂行を目指した先端的な講義を実施した。

顕著な変化のあった観点名 主体的な学習を促す取組

分子細胞医学専攻、生体機能調節医学専攻、地域疾病制御医学専攻では、学生による主体的な予習・復習を促進するとともに、遠隔地に住む社会人学生のために、e-ラーニングコンテンツを継続的に増加し、平成 19 年度から平成 21 年度にかけて 71 コンテンツを増やした。

口腔生命科学専攻では、同専攻の設置目的である「科学的基盤をもち超高齢社会で指導者となる高度医療専門職業人」の育成を目指すために、高度な歯科治療を自学自習するシステム作りに取り組んだ。すなわち、細かな口腔内の術野を供覧できるデジタル画像配信システムを整備するとともに、これらを用いて大学院用 DVD 教材を作成し（資料）、ウェブサイト上で公開し、精微な歯科臨床技能を繰り返し学習できる環境作りを行った。また、一般組織標本、病理組織標本をデジタル画像化し、パソコン上で閲覧できるシステムを構築し、基本教材を作成した。これらの教材作成により、自学自習できる環境を整備することができた。

資料 大学院学生向け DVD 教材（口腔生命科学専攻）

Le Fort I 型骨切り術	埋伏智歯抜去術	顎裂部腸骨移植術
下顎枝矢状分割術	摂食・嚥下機能評価 Vol.1-2	歯の移植
矯正歯科臨床ライブラリー	下顎運動測定法	粘膜移植
口腔インプラント埋入手術	マイクロエンドドンティクス	ラット骨膜採取
デンタルインプラント埋入手術	培養骨移植	

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名                      新潟大学                      学部・研究科等名                      医歯学総合研究科

---

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

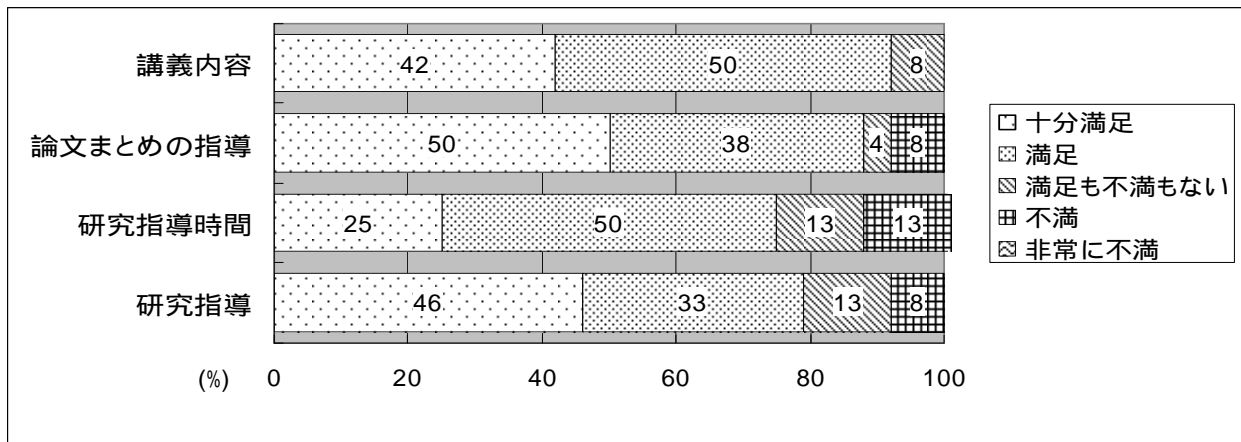
分析項目    進路・就職の状況

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名   関係者からの評価

平成 20 年度に修了生に対して行ったアンケート調査によれば、本博士課程に対する博士課程修了生の評価は良好であった。特に、講義内容に対して十分満足と回答した割合が、平成 19 年度の 42% から平成 20 年度には 75% に向上した（資料 1，資料 2）。これらは、がん専門医養成コースなど、学生の要望に応じたコースを導入してきた成果の現れであると考えている。

資料 1   平成 19 年度に行った本研究科修了生に対するアンケート調査



資料 2   平成 20 年度に行った本研究科修了生に対するアンケート調査

